

戸出によっといで

“富山県高岡市南部にたたずむ魅惑のまち”

開町400年
記念

富山大学生らの視点から作成

「戸出まち歩きマップ」

戸出の魅力的な水路、水にまつわる歴史

戸出で前田のお殿様に
出されていた御膳を再現！

加賀藩領内有数の豪商だった竹村屋

戸出が富山県

鉄道発祥の地となった理由とは？

[特集]

江戸時代を代表する麻布のまち
戸出の秘密に迫る！！

富山大学生らの視点から作成！

戸出まち歩きマップ

Toide map



江戸時代を代表する麻布としては、越後縮、奈良晒、高宮布、越中布が四大麻布として知られている。この越中布とは、五郎丸布とも呼ばれ戸出などを中心に生産されていた「八講布」のことである。

関西方面を中心に出荷され、加賀藩から江戸幕府への献上品としても利用された八講布は、袴（かみしも）や幕、蚊帳などに利用された。袴は上級武士の正装、庶民や下級武士にとっては礼装だった。明治以降、八講布は生産されなくなったが、その後も戸出

は繊維業のまちとして発展していくことになる。

では、なぜ戸出が江戸時代を代表する麻布の中心地となったのであろう。この小冊子ではその謎に迫ってみたい。

まずは富山大学芸術文化学部の学生らが作成したこの「まち歩きマップ」を見てほしい。

このマップにもヒントが隠れている。次のページめくる前に皆さんも考えてみてほしい。

シトロな香りのピンクの空き家 10 昔ながらの小さなおうち

オレンジの倉

伝統的な出格子（さまのこ）の残る家並み

堀が特徴的な元戸出物産迎賓館の門

TOIDE



最近まで、お地藏さんと思われていましたが、実は大仏！
赤い帽子はその名残。
今でも地元ではお地藏さんとして親しまれています

高岡南高校

周囲を覆い垂れ下がる幘の枝。
入り口の鳥居をくぐると、その神秘的な空間に、
この木に宿るとされる、天狗を感じられるよう
*私有地なので開いている日は限られます。

さまのこの歴史的な街並みの残る
戸出のメインストリート

細い路地を抜けると、
突如広がる静謐な空間。
日常を忘れて心穏やかに



ちょっと足を止めて・・・

1 昔ながらのおうち

4 元薬局、茅葺屋根に歴史を感じるたたずまい

2 建築家吉田鉄郎氏ゆかりの地（現 吉田次郎八商店）

5 大正モダンの遊郭の倉の門

3 明治に建てられた高い吹き抜けが素敵

6 昭和にできた西洋的なたたずまいの元病院

7

8

9

戸出の魅力的な

水路たち

2015年9月、富山大学芸術文化学部丸谷教授ゼミ学生の研究成果発表が行われた。その際に最も印象的だったのは「戸出の水路は美しい」という内容だった。



秋葉町(戸出町2丁目)JR戸出駅付近



寺町(戸出町3丁目)戸出野神社付近



苧麻 今でも水路の近くなどで見つけることができる。みなさんも探してみましよう。

戸出地区は庄川扇状地の扇端部、湧水地帯にある。県道9号線より北(醍醐北部)は家々が集まっている集村地帯で、南(醍醐南部、是戸)には散居村が広がっている。北般若地区は千保川(舟戸口水)と庄川に挟まれた地域に縦長に成立している。

今では想像もできないが、北側は不湖(フコ)と呼ばれる一面の湿地が広がっていた。そのため、醍醐北部の家々は少し小高いところに集まった。一方の南側はなだらかな傾斜を利用する灌漑が発達した乾田地帯だった。家はそれぞれの田畑の近くにつくられ「散居村」となったのである。

当地方の農家では、古くから白給自足的な副業として麻を栽培して布を生産していた。経糸に大麻、緯糸に苧麻(ちよま)を使用する八講布と呼ばれた麻布は、全国の麻布の中でも特に色が白く良質のものとして知られていた。麻布を白くする一般的な方法は、まず灰を加えて煮る。その後、杵でたたく。これによって繊維に入り込んでいる色素が分解される。次に、河川で布を晒して洗い流す。この工程を繰り返すことで白い麻布が得られるのだ。

なぜ戸出が日本屈指の白い麻布の生産地となったのか、もうわかり

だろう。戸出は日本最大規模の庄川扇状地の湧水地帯にあり、綺麗な大量の湧き水に恵まれていたために白麻布を大量に生産できたのである。

1668(寛文8)年の川合文書では、市野瀬、伊勢領、狼、古戸出、中之宮で布晒しが行われていたとの記録がある。砺波射水地方の農家の作った麻は、戸出近郊などで白くされた後、関西や江戸などへ出荷された。緯糸に使用された苧麻は、現在の戸出近辺でも水路の脇などに自生しているのを探してみるのも面白い。

加賀藩最大の特産品は九谷焼や輪島塗ではなく、八講布だった。八講布は江戸時代「四大麻布」のひとつとして数えられている。1818年(文政元)、砺波射水地方の麻布・判押しの権利(麻布出荷量の管理)を領内屈指の豪商として知られる。戸出の竹村屋芳太郎が引き受けることになった。戸出は麻布の中心地のひとつだった。これは明治維新以降の戸出の繊維業の発展にも繋がっていく。伊勢領の宮本家では明治天皇崩御の際に白布を献上し、御礼として算盤を拝領したとのこと。

戸出に残る魅力的な水路は、庄川の恵みと繁栄を誇った地域の歴史も感じることができる水路なのである。



伊勢領の晒し場跡

いせりょうのさらしばあと

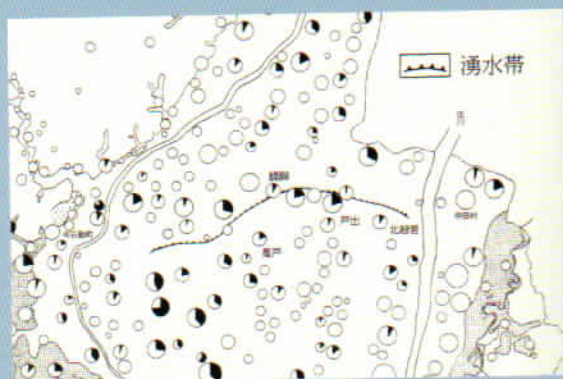
伊勢領の宮本酒店と伊勢領神社の間には小川が流れており、江戸時代には布晒しが行われていた。伊勢領地区では晒しを行っている家は多く、他の小川でも行われた。明治時代になっても30〜40軒が布晒しを行っていたが、それ以降は伊勢領神社の裏にあった晒し工場にて、サライ粉を使って布を白くしていた。工場は終戦まで稼働していたそうだ。



舟戸口用水

ふなとぐちようすい

地元では現在「新川(しんかわ)」と呼んでいる。昭和30年代頃までは「新聞(しんかい)」と呼ばれていた。それ以前は千保川と呼ばれ、戸出町開町の頃は千保川が庄川の本流であり、川幅は現在の戸出公園から大清水神社までという大河川だった。舟が物流の中心だった時代、この大河川があったからこそ、この地に戸出町が開かれたのだ。



戸出付近の湧水帯 戸出近辺は庄川扇状地による日本最大規模の湧水地帯だった。(*「近世初期加賀藩の新田開発と石高の研究」*より)



大清水の晒し場跡

おおしみずのさらしばあと

前田利家が豊臣秀吉から拝受した聚楽第の御殿はこの地に移築され、大清水御旅屋として使用されていた。1783(天明3)年、その跡地を利用して大きな布晒し場が整備された。「よき清泉ありて 四方よりつどい集まりて 日さなかに晒したるはおびただしきことにて さながら卵の花の一面に咲きたる如し いと趣あるところなり」(*「越の下草」*より)

市野瀬の五十玉用水湧水地

いちのせのいこだまようすいせうすいち

昔よりも地下水位が下がった今でも、各所で湧き水が見られる。綺麗な川の中ではカラー(花)の栽培も行われている。江戸時代には戸出近郊の各地でこのような湧き水や小川が見られたことであろう。



繊維業で栄えたまち・戸出

麻布で豪商・竹村屋茂兵衛



竹村屋茂兵衛(5代目・尚勝)

刀を持っているのが特徴的。竹村屋は布商人であったが名字帯刀が許されていた。

戸出在住の豪商として名を馳せた竹村屋茂兵衛について調べてみよう。江戸時代の人たちは親から子へと代々、名前を引き継いでいったので父も茂兵衛、子もまた茂兵衛である。加賀藩への貢献が大きかった竹村屋は、名字(武田)を名乗ることも許されていた。

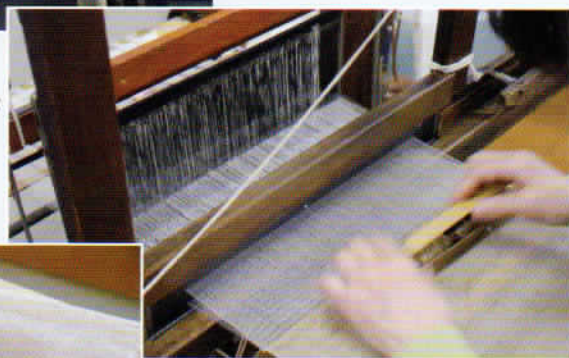
4代目竹村屋茂兵衛は、1802年(享和2)に加賀藩が商人から銀を調達した際、領内で2番目に多く銀を提出したとの記録が残っている。戸出からはそれ以外に、新屋(あたらしや・吉田)仁兵衛、古武屋(ふるたけや・古澤)孫右衛門も藩へ銀を提出した。この戸出の3軒だけで、砺波郡の1/3の銀の量に提出していた。戸出には有力商人が多く、富が集中した町だったことがわかる。

ちなみに当時、加賀藩領内一の豪商だった木屋(木谷)藤右衛門は、日本一のお金持ちとして全国に名を知られていた。

茂兵衛が寄進した願性寺山門



戸出野神社大鳥居
竹村屋茂兵衛の繁栄にあやかろうと伏木の廻船問屋らが寄進した



糸に麻、緯糸に苧麻を使って茂兵衛らが取り扱っていた八講布を再現してみた。
(能登上布会館にて)



再現八講布

た。当時、金沢は日本第4位の大都市だった。戸出はその大都市と加賀藩を支える上で、大変重要なまちだったのだ。竹村屋は布問屋として知られ、主に八講布を取り扱ったが、菜種油なども取り扱っていた。地元農民に向けては肥料として蝦夷(北海道)の鯨を販売した。

晩年は、経済思想家・海保青陵と深く交流した。海保の「家が豊かになれば国も豊かになる。」といった教えに彼は感動し、京都へ行くたびに青陵に会って講義を受けたといい、青陵の書物「洪範談」を自費で出版するなどした。

旧女子寮
後の時代になってからは男子寮としても使用された。



敷地内の「物産神社」には戸出物産を創業した吉田仁平の銅像がある。父は、1889(明治22)年に初代の戸出町長を務めている。「日本の近代建築の父」として世界中に知られた建築家・吉田鉄郎の義父にあたる。

ノコギリ屋根(3連)
電力が貴重だった時代、明かりを建物内に取る入るために作られたノコギリ屋根。



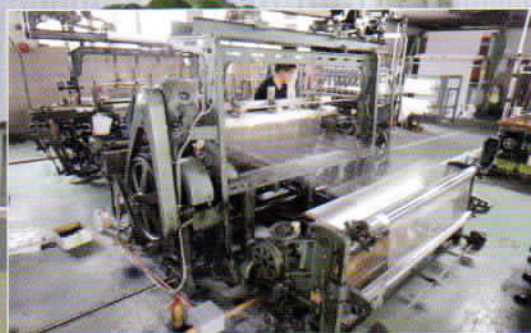
繊維のまちに残る工場跡地

加賀藩第一の特産品だった麻布「八講布」の中心地として栄えた戸出町。その歴史を受けて設立された戸出物産株式会社は吉田仁平らによって、現在は戸出コミュニティセンターとなっている戸出町2町目の場所です。1896(明治29)年に創業した。これが富山県内における最初の株式会社だったといわれる。今、戸出町1丁目に残っている工場群は1902(明治35)年に林太郎右衛門らによって設立された戸出織物株式会社の敷地にある。戸出織物は1944(昭和19)年に戸出物産に買収された。戸出物産は綿織物、絹・人絹織物、合成繊維などを製造してきたが2015(平成25)年1月に操業を停止した。

また、北海道にある戸出物産小樽支店は小樽市の指定歴史的建造物となり、土産販売施設「スーベニールオタルカン」として活用されている。

ノコギリ屋根(10連)

屋根に黒い瓦が乗ったノコギリ屋根の建物は全国的にも北陸だけに見られる大変珍しい建物とのこと。



戸出物産工場内



ノコギリ屋根の建物での縫製作業。当時の電灯はまだ充分な明るさではなかったため太陽光は必須だった。南からの光は強すぎるため、糸の品質や織物の仕上がりを確認するためには北からの自然光が最適だった。

てきた古い写真

戸出物産から昔の写真が見つかったのでそのいくつかを見てみよう。数十年前の写真であるにもかかわらず、今とは随分異なる戸出の様子をうかがい知ることができる。



戸出物産の本社前景（現在の戸出コミュニティセンター）。南方向に撮った写真。現在は暗渠となっているが、当時は川が流れていた。



戸出物産の本社前景。現在、戸出コミュニティセンターがある場所。北方向に撮った写真。ぼんぼりが見えるのは桜まつりが開催されていたため。戸出物産敷地にはたくさん桜が咲いていた。道はまだまっすぐではなかったようで、左にはカギ型に曲がったエンゾロも見られる。



戸出物産従業員らによる体育大会。現在の寺町ニュータウン<戸出2丁目>のあたり。左奥に見える林蔵は、永安寺の裏（東側）にあった林。右奥に見えるノコギリ屋根の建物は戸出物産本社工場（現在の戸出コミュニティセンター）。年によっては戸出小学校グラウンド（現在の高岡南高校グラウンド）で開催されたこともあったそう。



野球大会の様子。左と同じく、現在の寺町ニュータウンのあたり。

富山県で最初の株式会社

戸出物産小樽支店。戸出物産は北海道でも大きな事業を展開していた。「当時の北海道では、戸出物産は伊藤忠商事よりも大企業だと思われていた」とのこと。



戸出物産では多くの女性が工員として働いていた。敷地内には寄宿舎、学校、診療所などもあったようだ。



寺町工場 昭和14年。
火災が起きた本社工場。

毎春、中学校を卒業した人たちが北海道からたくさん戸出物産に働きにやってくる。「金の卵」と呼ばれたその若者たちに向かって、従業員だけでなく近所の大人や子供も一緒になって、戸出によろこ！と小旗を振って歓迎していたよ。

(昭和25、26年頃の話)

戸出物産からで

現在の寺町ニュータウンのあたりから東方向に撮影された写真。奥には、現在も戸出町1丁目に残る戸出物産大学島工場のノコギリ屋根や煙突が見える。この煙突は全国有数の煙突技術を持つ戸出の松島工業によるもの。この煙突は長い間、戸出のシンボリックな存在であった。戦前の写真のようだが、アメリカ国旗が見える。当時の戸出町1丁目にはほとんど家並みがなく、農村風景が広がっていたことがわかる。



Recruitment

戸出物産やその他戸出にあった繊維関連の会社で働いていらっしゃるかたの体験談を募集しております。手紙でも電話でもお気軽にご連絡ください。また、機織り機、麻糸を作る器械などがご自宅に眠っていましたら是非お知らせくださいませ。

戸出物産には昭和40年4月～49年3月の間、県立雄峰高等学校の戸出教室が設置されていた(通信制課程。今は事務所棟が建っている場所)。事務所棟の南側にはグラウンドが整備されここで運動会が開かれたこともあるとのこと。

北陸道

旧北陸道の一里塚

戸出町市街地を東西に貫く道は、高岡にまちが築かれる1609年(慶長14)までは「北陸道」として最も人が行き交う道だった。

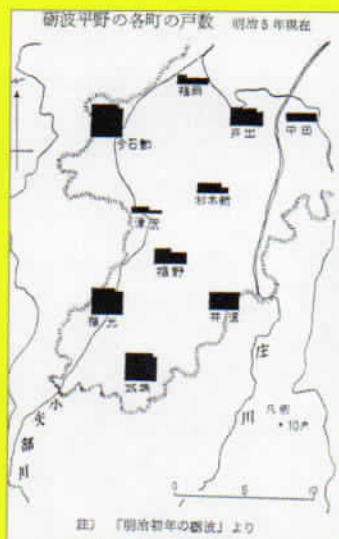
徳川家康は1604年(慶長9)、將軍秀忠に命じ各地の街道を整備させた。北陸で街道の整備を行ったのは前田利長公である。今の新潟富山県境から石川福井県境までの北陸道を幅2間(約3・6m)に整備し、1里(約3・9k)毎に一里塚を築いた。この道は江戸時代中頃まで北陸で最も太い道だった。

戸出には一里塚もあった。1980年(昭和55)、富山県教育委員会の調査によってその場所は現在の東町地蔵堂あたりと推定された。この場所は当時は庄川の本流であった千保川左岸の川辺だったこともあり1660年(万治3)の洪水で流失した、との記録が残っている。

現在戸出ではこの道を上使街道(じようしかいどう)と呼んでいる。「上使」とは江戸幕府が諸国の情勢調査のために派遣した巡見使のこと指す。巡見使もこの道を通っていた。

時代を遡ると、この道は豊臣秀吉や前田利家からも通った道である。前田利家が1602（慶長7年）に史上初めて江戸へ参勤した際にも通ったといわれ、「参勤交代の元祖の道」ともいわれる。

平安時代末期の北陸道もこの付近にあったと考えられており、木曾義仲が進軍した際に馬を繋いで休息を取ったといわれる「駒つなぎの松」が今も戸出公園にある。



十村・川合家

「戸出よいとこ 砺波の都
米の出どころ 機織りところ♪」

右は 私たちには馴染みの深い戸出音頭の歌詞の歌い出しである。しかし、地元の小中学校でも地域の歴史についてはあまり多くは教わる機会も少なく、意味がよく理解できない人が多いのではないだろうか。

今の静かな戸出からは想像もできないが、江戸時代の戸出は、現在の砺波市の中心にあたる杉木新町(すぎのきしんまち)の2倍以上の人口を誇る、平野部でもっとも繁栄を誇った大きな町だったのだ。

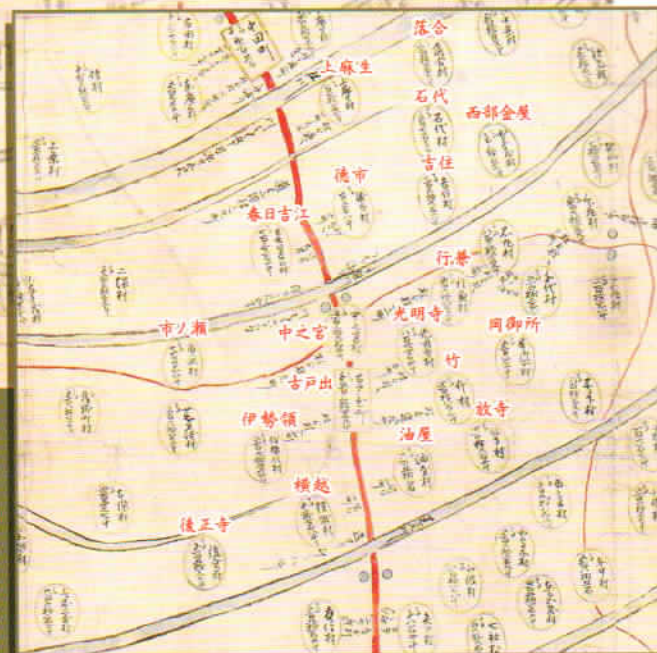
戸出御旅屋の門



高岡

戸出

江戸時代前期の1644～1660年頃に作られた「越中四郡絵図」。富山県全体を描いた絵図では「現存する最古のものである(小矢部市民図書館蔵)」。江戸時代前期、戸出を東西に貫く旧北陸道は最も整備された大きな道だった。



◆加賀藩の第一の特産品だった「八講布」の主産地
◆加賀百万石を支えた最大の米産地であり、集積地
◆北陸で最も大きな街道が通っていた。
◆舟運が物流の中心だった時代に、物流の大動脈である千保川が通っていた。

・千保川の西側にある○印は戸出にあった「北陸道一里塚」を表している。
・古戸出町、中之宮村の地名は見えるが戸出町の名はない。この頃はまだ町並みが揃っていなかったようだ。
・この頃の庄川の流路は現在とは違って、上麻生村は庄川左岸(戸出側)にあった。

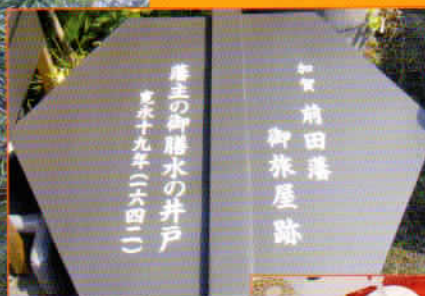
「戸出が「都」と呼ばれるほどの栄華を誇っていた理由が見えてきたらどうか。」
このように加賀藩にとって大変重要な場所であった戸出には、お殿様が休憩される「御旅屋(おたや)」が設置され、お殿様が時折、視察を兼ねた鷹狩りにお越しになられた。

戸出でお殿様へ提供された料理の記録が残っていたので、今回再現してみた。



高野榎

戸出を開町した川合家の2代目・又右衛門が前田利家公を弔うために高野山から持ち返った樹齢390年の高野榎。2016年(平成28)、高岡市天然記念物に指定

ごぜんすい井戸
御膳水井戸

鷹狩の際など、お殿様に提供する水を汲んだ「御膳水井戸(ごぜんすい井戸)」。今も水を飲むことができる。



殿様料理

「戸出町史」に書かれている戸出で振舞われた殿様料理を再現してみました。



明治29年(1896)10月竣工、明治30年5月開業の戸出駅は日本海側で最も古い駅舎として知られている。最初に走った機関車は戸出で組み立てられた。戸出は富山県における鉄道発祥の地であり、日本海側の民営鉄道発祥の地である。なぜ戸出が、そのような名誉ある場所として選ばれたのだろうか。

その謎を解く前に城端線の歴史について軽く触れてみよう。中越鉄道の開業に尽力した人物としては左の3名が知られている。

- (1) 富山県の土木技術者 吉田茂勝
- (2) 地元選出の衆議院議員 島田孝之
- (3) 中越鉄道初代社長に就任 大矢四郎兵衛

最初に行動を起こしたのは吉田茂勝だ。当時の砺波地方は日本海側有数の人口密集地帯であった。また、大きな山や川を越える必要もないため工費が安く済み、自然災害によって被害を受ける可能性も低いと考えられた。この鉄道は必ず地域に貢献すると確信した吉田は、島田と共にこの鉄道の優位性を地域の有力者らに説明して

回った。

大矢らによって鷹栖(砺波市)・津沢(小矢部市)を経由するルートも検討された。しかし、水運による物流のまちであった津沢の船頭らの強い反対がありこれは実現しなかった。もしも城端線が津沢を経由していたら色々と今とは違っていただろう、と考えるだけでも面白い。

高岡からは千保川の水運を利用しようとしていたのだろう。高岡駅は千保川に近い博労町で建築工事が進められた。しかし、建築中だった高岡駅は明治29年の大洪水によって流されてしまう。翌年の開業に間に合わなくなってしまうのだ。そして、当初は高岡で行われる予定だった蒸気機関車の組み立ては急遽、戸



中越鉄道機関車・甲一形三号(中越弁慶号)

砺波チューリップ公園(砺波市)にて保存されている中越弁慶号は富山県で初めて走った蒸気機関車のうちの1両である。イギリス・マンチェスターにあったナスミス・ウィルソン社製。

戸出が鉄道発祥の地 となった理由とは？

日本海側初！民営鉄道発祥の地「戸出駅」

出で行われることになったのである。イギリスのマンチェスターから輸出された部品は伏木港で小さな舟に移され、千保川、玄手川などを經由して戸出駅に隣接した機関庫に運び込まれ組み立てられた。

様々な困難を乗り越えて開業したこの鉄道は好業績を記録し、地域発展の主軸となって機能していった。この後、中越鉄道は国鉄時代を経て今の城端線に至っている。

今の時代を生きる私たちは先人らの苦勞やチャレンジ精神に感謝しなくてはならない。彼らのように広く世界の情勢を見据えながら地域の発展と豊かな社会実現のためにチャレンジしていきたいものである。





戸出駅で開催された「べるもんたよっといで」

2015年10月11日、JR西日本の観光列車「べるもんた」を歓迎するイベントを戸出駅にて開催。「富山県鉄道発祥の地・戸出」をPRするパネルが制作された。
(Photo by K. Shima)

津沢を経由するルートは船頭らの強い反対にあって実現しなかった。

あいの風鉄道
千保川
北陸新幹線
高岡駅
新高岡駅

当初高岡より北は千保川の
水運の利用が検討されて
いた。もし実現してい
たなら、富山市の富岩運
河のような運河が高岡に
も造られていたかも…。

戸出駅

砺波駅

鷹栖駅

津沢駅

福光駅

福野駅

城端駅

もしも… の城端線



島田孝之

現在の高岡市島新生まれ。衆議院議員を務めていた当時、吉田と共に地域の有力者に、鉄道の有用性を説明してまわり、鉄道開業のために尽力した。
(写真は中田町誌)



大矢四郎兵衛

現在の砺波市鷹栖生まれ。衆議院議員を務めた後、中越鉄道の初代社長を務め、砺波地方の発展に大いに貢献した。中越鉄道に対して多く出資も行った。
(写真は富山県史)

日本海側最古の駅舎



平成27年度

富山大学芸術文化部との連携

2015年度(平成27)、富山大学芸術文化学部丸谷教授(当時)とその授業を選んだ学生さんらに、戸出地域の町並みと建築物を授業の課題として、研究を行っていただきました。

戸出を題材にして授業を受けた感想

今までの授業で、実際にある町を歩いたり町屋を実測したりする機会はなかったもので、とても貴重な体験でした。

初めは、「富山で最初に出来た戸出駅がある町」という知識しかなかったのですが、町歩きや「戸出によって」の方々の交流を通して戸出町の魅力に気づきました。高野横や出格子が残る町屋など隠れスポットが沢山あること、少しでも戸出を盛り上げようという

活力、七夕祭など歴史のあるイベントが残っていることが素晴らしいと感じました。

戸出町に限らず、町にはそれぞれの魅力があるはずで、私たちも住んでいる町をもっと知り、その町の良さを理解したいと思いました。戸出のような歴史のある建物やイベントを知ること、自分の町をもっと好きになり、町に貢献していきたいです。

戸出の魅力は地域のストーリーとヒトの魅力

富山大学芸術文化学部 丸谷 芳正 名誉教授

大学では基本的な教養や専門的な知識を教えるが、本当に身についた教養や知識となるには、実践を通して学ぶことが一番の近道だ。とはいっても実際にそのような対象を見つけることはむずかしい。カリキュラムや時間割との整合性や、地域からの協力も必要であり、建築の授業では対象となる建物があるだけでなく実測が可能であることが必要最低条件となる。さらに、教える立場からいって倍の労力が必要とするためその労に値するかどうか。

丸谷教授と学生4名



富山大学芸術文化学部造形建築科学コース

木下紗貴 × 立山凧 × 東谷日向子 × 村上愛佳



学生による発表の様子(2016年2月)戸出コミュニティセンター



「といで軽トラ商店街」へ学生ブースとして出店



学生がつくった建物の模型

ところが戸出では、平成二十六年、二十七年と二年間続けて授業を行うことができた。特に二十七年は前期、後期と同じ地域で2回行ったのは私の17年間の教員生活の中ではじめてのことでした。その理由を考えみると、ひとつは地域のストーリーの魅力、もうひとつは戸出のヒトの魅力です。これまで多く語られてきた近世の歴史の上に近代の歴史が地層のように重なっています。特に旧戸出物産が地域に与えた影響は大きく、今も戸出のまちの人の心に大きく存在しています。この記憶を形あるものとして残したいという地域のひとの想いが私や学生たちの心を動かしたようです。後期の成果発表会では学生たちの成長を親のように喜んでいただきました。地域の和を気遣いながらも課題解決へ自由な発想で挑む「戸出によって」と「グループと戸出を愛する方々への応援のメッセージ」とさせていただきます。ありがとうございます。

「戸出によっといで」 活動紹介ページ TOIDENI YOTTOIDE

戸出の定住人口、交流人口を増やし、自分たちの地域を誇りが持てる“ワールドタウン”にしよう。そんな目標に胸に抱いて私たちは活動しています。

戸出地区未来創造異脳種会議「戸出によっといで」

2016年度(前期)までの活動紹介

[2014年]

10/10 ●「戸出によっといで」発足

[2015年]

2/1 ● 第1回「戸出によっといで」フォーラム
「人が湧くわく。夢が沸くわく。未来錬金術」開催

● 富山大学芸術文化学部 丸谷教授講演会
ゼミ学生研究成果発表(戸出コミュニティーセンターにて)

4/9 ● 第2回 高岡・ひと・まち交流定例会に参加
高岡市内各地のまちづくりグループとの意見交換

6/23 ● 富山大芸文学部「戸出町並み調査」ミニフォーラム開催

7/5 ● 「といて軽トラ商店街」開催(戸出七夕期間中)
参加台数39店舗。富山県内最大規模

9/2 ● 富山大芸文学部 丸谷教授講演会 ゼミ生研究成果発表

10/6

10/11

11/8

11/14

11/14

11/24

[2016年]

7/3

- 長野県伊那市市議会視察団の受入れ
- 観光列車歓迎イベント「べるもんたよっといで」開催(戸出駅前)
- 「ワークショップによっといで」開催
 - ①長岡造形大学 木村教授講演「戸出町の文化的景観・活用、修復の全国例」
 - ②戸出の魅力を活かすためのワークショップ
- 氷見市漁業交流館「魚々座」視察研修
- 西村幸夫「町並み塾 in 吉久」に参加
- 「高岡4D-ポケット(よじげんぼけっと)」設立ミーティングに参加
- 「といて軽トラ商店街2016」&「アートアンブレラコンテスト」を開催
(富山大学芸術文化学部学生らとのコラボイベント)

正会員メンバー募集

当グループの趣旨に賛同していただけるメンバーを募集しています。

私たちと一緒に、楽しみながら地域を盛り立てて行きませんか。

イベント開催や、歴史探求など、楽しいことは何でも実現しちゃおう!

イベントスタッフ募集

「難しいことを考えるのはイヤだけど、地元のイベントを一緒に盛り上げてみたい!」

そんなあなたは、イベントスタッフとして登録してみませんか? イベントを開催するときに随時ご連絡させていただきます。インターネット上からもお気軽にお申し込みいただけます。



2015/7/5「といて軽トラ商店街」
戸出駅前通り



2015/11/8「ワークショップによっといで」



2016/7/3「アートアンブレラコンテスト」

次号予定

- ◆ えっ、戸出にある!? 幻の「高岡城」の痕跡
- ◆ 開町400年記念第二弾。戸出町開祖の川合家に迫る。他



お問い合わせ／戸出地区未来創造異脳種会議「戸出によっといで」事務局

[〒939-1104 富山県高岡市戸出町2-9-1 TEL:0766-63-2507(火曜定休)]

facebook: <https://www.facebook.com/yottoide/>

公式サイト: <http://www.senmaiike.net/toide/>

[発行]地域の文化遺産継承事業実行委員会

[協力]戸出地区未来創造異脳種会議「戸出によっといで」 富山大学芸術文化学部(丸谷芳正名誉教授、学生の皆さん)

[発行日/2016年10月31日]

本冊子は文化庁の補助事業「平成27年度文化遺産を活かした地域活性化事業」の一環として、戸出の近代化文化遺産、および戸出の町並みの魅力を伝えるために作成されたものです。

design by N.T

